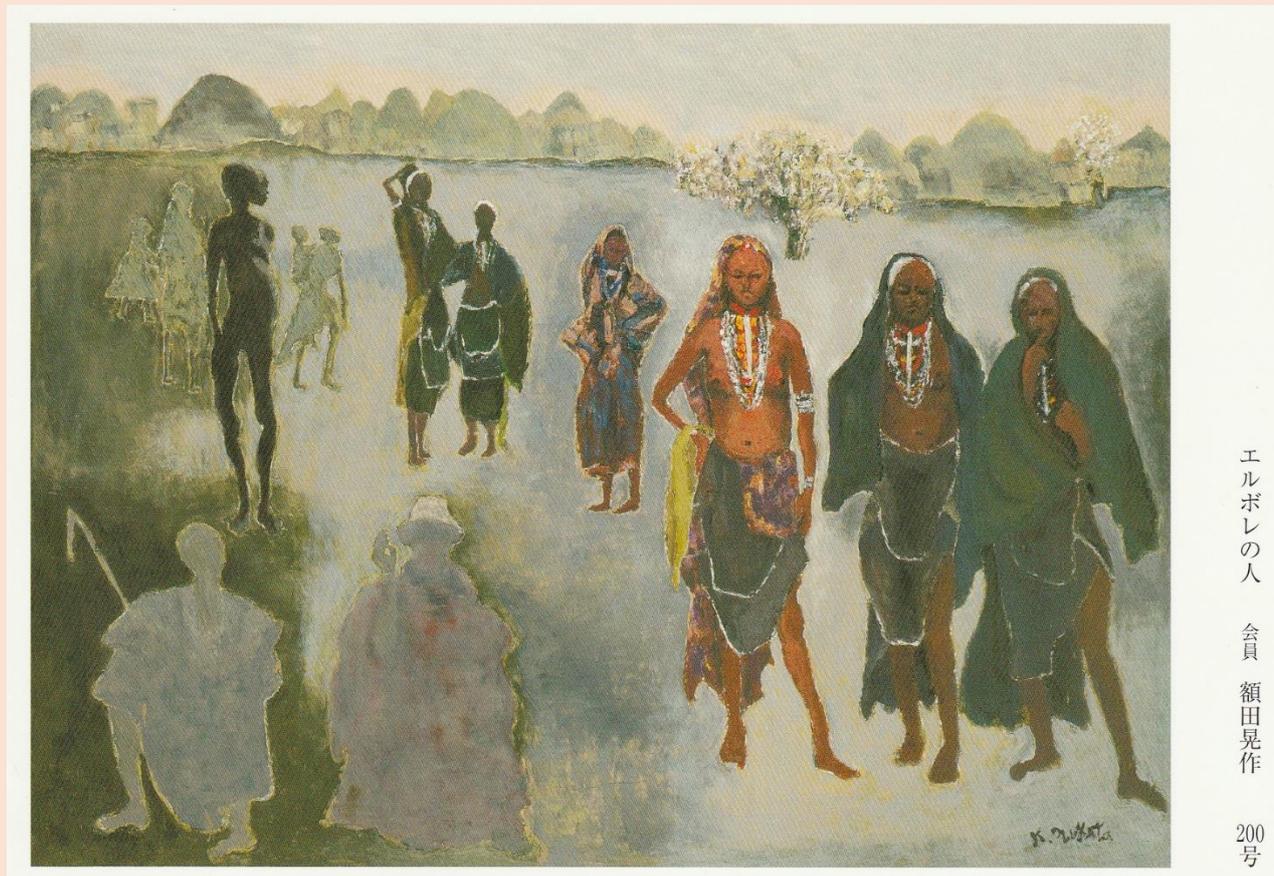


今年の独立展 額田さんの絵を見てきました

2024-10-24 野口幹夫



エルボレの人  
会員 額田晃作

200号

東京六本木の新国立美術館でひらかれた今年の独立展に行ってきました。額田さんの絵は、毎年入ってすぐの特等席にあったのですが、今年はいつもの場所がありません。係の人に聞いてようやく見つけました。ぐるっと回った一番奥でした。

やはりエチオピアの絵でした。題して「エルボレの人」

3人の女性が立ちほだかっています。強い意志を感じます。遠い想像もつかない異文化の人という感じです。

エルボレというのは、エチオピアの南の奥地、観光ルートからも外れた少数民族だそうです。

独自の文化で、未婚の女性は剃髪しているのだそうです。住まいは藁ぶきの家で 絵の奥の

方に見えるのは山ではなくて住宅のようです。

額田さんはこんな奥地まで一人で旅行され、絵をかくことで エルボレの人々と交流された  
のですね。

絵を見ながら手前左の二人の男性の影絵が最後まで気になりました。そこにいながらその存  
在は消えてしまいたかったのか。あまりの異文化に圧倒されてしまったのか。しかしそこ  
おられることだけは確かです。未完ではなくこのような存在がふさわしかったのでしょうか。

額田さんに聞いてみたくなりました。事務所にいきましたがむろん額田さんはおられません  
でした。来年もまた傑作を期待しています。

以上